

事例番号:370168

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第七部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

妊娠 26 週 4 日 胎胞膨隆のため入院

3) 分娩のための入院時の状況

管理入院中

4) 分娩経過

妊娠 31 週 3 日

0:40- 陣痛開始

3:10 血液検査で白血球数 $13000/\mu\text{L}$ 、CRP 0.73mg/dL

6:00- 胎児心拍数陣痛図で変動一過性徐脈あり

7:18 経膣分娩

胎児付属物所見 胎盤病理組織学検査で臍帯炎 stage3 (中山分類)、絨毛膜羊膜炎 stageⅢ (Blanc 分類)あり

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:31 週 3 日

(2) 出生時体重:1500g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.28、BE -10.2mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 3 点、生後 5 分 7 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)、気管挿管

(6) 診断等:

出生当日 早産低出生体重児、重症新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

生後 28 日 頭部超音波断層法で両脳室周囲白質に蜂の巣状に低エコー領域あり、脳室周囲白質軟化症を思わせる所見

生後 54 日 頭部 MRI で脳室周囲白質軟化症の所見

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 1 名、小児科医 1 名

看護スタッフ: 助産師 2 名

2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、出生までのどこかで生じた胎児の脳の虚血(血流量の減少)により脳室周囲白質軟化症(PVL)を発症したことであると考える。
- (2) 胎児の脳の虚血(血流量の減少)の原因を解明することは困難であるが、臍帯圧迫による臍帯血流障害の可能性を否定できない。
- (3) 子宮内感染が PVL の発症に関与した可能性がある。
- (4) 早産期の児の脳血管の特徴および大脳白質の脆弱性が PVL 発症の背景因子であると考える。

3. 臨床経過に関する医学的評価(2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

- (1) 搬送元分娩機関における妊娠中の外来管理(妊婦健診、妊娠 26 週 0 日の切迫早産症状に対しリトドリン塩酸塩錠を処方、妊娠 26 週 4 日に胎胞膨隆と診断し当該分娩機関へ母体搬送)は一般的である。
- (2) 当該分娩機関における妊娠 26 週 4 日から妊娠 31 週 2 日までの入院中の管理(切迫早産・胎胞膨隆・骨盤位と診断し子宮収縮抑制薬投与、抗菌薬などによる膣洗浄、血液検査、超音波断層法実施、適宜分娩監視装置装着、ベクタゾンリン酸エステルトリウム注射液投与)は一般的である。

2) 分娩経過

- (1) 妊娠 31 週 3 日、陣痛発来を認めたため、子宮収縮抑制薬の投与を中止し経膣分娩としたこと、および分娩監視装置を連続的に装着したことは、いずれも一般的である。
- (2) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (3) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

新生児蘇生(バググ・マスクによる人工呼吸、気管挿管)は一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

- ア. 早産児の PVL 発症の病態生理、予防に関して、更なる研究の推進が望まれる。
- イ. 絨毛膜羊膜炎および胎児の感染症や高サイトカイン血症は脳性麻痺発症に係すると考えられているが、そのメカニズムは実証されておらず、絨毛膜羊膜炎の診断法、治療法はいまだ確立されていない。これらに関する研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。